

令和7年度 第1回 大阪府立大阪わかば高等学校学校運営協議会議事録

校名	大阪府立大阪わかば高等学校
校長名	高階 章一

開催日時	令和7年8月26日（金） 10:30 ～ :
開催場所	大阪府立大阪わかば高等学校 会議室
出席者（委員）	小笠原 忠承（会長）、北野 正浩（副会長）、末 廣行（委員）
出席者（学校）	高階 章一（校長）、野地 千晶（事務長）、渡辺 創（教頭）、ミンハス 千春（首席）、長谷川 聡子（教諭）、ヘレダ・ディアナ（教諭）、奥井 啓介（教諭）
協議資料	・令和7年度 学校経営計画 等

議題等（次第順）	
(1) 校長挨拶 (2) 委員・事務局員等の紹介 (3) 会長等選出 (4) 協議・連絡 令和7年度 学校経営計画について 令和8年度使用教科書選定について 令和10年度 日本語指導における拠点校化に向けて (6) 校長謝辞	
協議内容・承認事項等（意見の概要）	
(1) 校長挨拶 学校だけで学校を運営していくのは不可能。地域の方々とともに学校運営をしていきたい。 特に本校の良い点を学校だけでは見落としてしまいがちである。地域の方々から見て、良い部分を再認識し、さらに伸ばしていけたらと考えている。 (2) 委員・事務局員等の紹介 (3) 会長等選出 事務局の提案により、小笠原 忠承委員を「会長」、北野 正浩委員を「副会長」とする。 (4) 協議・連絡 ○令和7年学校経営計画に基づく本年度の取組みについて（学校長より）→承認 ・めざす学校像、学校の現在の概況や多様な背景を持つ生徒について説明。 ・中期的目標の2『安心安全の学校づくりと生徒のエンパワーメント 「他者と関わり生きていく力」「課題を乗り越える力」を育む』については特に本校の強みである。 ○令和8年度使用教科書選定について 確認→承認 ○令和10年度 日本語指導における拠点校化に向けて（学校長より） ・勝山高等学校からの変遷について、大阪わかば高校の現状説明 ・大阪府の現状について（日本語指導が必要な生徒の急増とその整備の必要性） ・R7年8月「府立高校改革アクションプラン（抄）」が公表され、R10年度より日本語指導に係る「拠点校」とする ・R10年度より大阪わかば高校の敷地内に生野支援学校が併設される（インクルーシブ教育・授業の推進をすすめていく）	

委員からの質問・意見

・R10年度に向けて学校の名称は変わらないのか。

→愛称はできるかもしれないが、正式名称はかわらない。(学校長)

・日本をリードするような学校になっていただきたい。

・わかば高校にある福祉の授業でも「併設」ということはいきてくるのではないか。ただ、学校教育法により行政が縦割りになっているので、色々融通がきかない場合も出てくると思う、教育庁とのやり取りで事前の準備が必要だと思う。

・R10年度に向けてわかば高校の責務は非常に大きい。特に外国籍の方々が日本語を習得したい思いは非常に高い。

・生野区は大阪市内でもトップの外国籍の方々が住んでいる。中学校でも外国籍生徒が非常に増えている。中学校でも日本語指導ができる人を確保するのが非常に難しくなっている状況である。今後とも協力していきたい。

(5) 校長謝辞

R10年度に向けて、一番不安を抱えているのは本校教職員である。不安がぬぐえるような学校経営をしていきたい。今後ともよろしくお願いいたします。

次回の会議日程

日 時	11月か12月に実施予定
会 場	大阪府立大阪わかば高等学校 会議室